

## 山形県「酒田・飽海地区」における左官の変遷調査

## — 左官職人オーラル・ヒストリー —

日本大学理工学部社会交通工学科 学生会員 ○後藤 主良  
 日本大学理工学研究科研究生 正会員 堀川 洋子  
 日本大学理工学部社会交通工学科 非会員 野水 雅之  
 日本大学理工学部社会交通工学科 正会員 伊東 孝

## 1. はじめに

山形県「酒田・飽海地区」では、「伝統工法」や、「材料が土材からコンクリートへ変化したことによって生まれた技術」の存在が薄れてきている。

本研究では、「酒田・飽海地区」における左官技術や材料が、どの時期に、なぜ消えていったのか。また独自の左官文化は存在するのかなどを明らかにするため、左官職人へインタビューをおこなった。

同時に、愛媛県・高知県でおこなった調査を参考にまとめる。

## 2. 調査方法

本研究では、現地調査とオーラル・ヒストリー手法によるインタビューをおこなった。

現地調査は、愛媛県・高知県と「酒田・飽海地区」で、実際に建築現場を案内してもらって現状を把握し、さらに「酒田・飽海地区」では、『山形県の近代化遺産』（山形県教育委員会，2001）に掲載されている建築物を見学し、どのような技術が使われているのかを調べた。

## 3. オーラル・ヒストリーの使用理由と語り手の選定

オーラル・ヒストリーを調査手法とした理由は、対象とした左官職人は、個人事業に携わる場合が多く、「酒田・飽海地区」の左官を示す文献がない。

またアンケートでは、当初の枠組みである質問項目以上のデータを得ることが望めないのに対し、オーラル・ヒストリーでは、左官職人の記憶をたどりながら自由に語っていただく中で、新たな発見や本音などを聞くことが可能である。そして、インタビューを記録し、書き起こすことで文献資料にすることも可能であると考えたからである。

インタビューイー（語り手）の選定は、愛媛県・高知県では紹介によってインタビューに協力して頂いた

キーワード：山形県，酒田・飽海地区，左官，職人，オーラル・ヒストリー

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 TEL047-469-5572 FAX047-469-2581

が、インタビューにおいて「代表性」が重要である。

この問題を解決するため、「酒田・飽海地区」では、①一人親方、②会社経営者、③（社）日本左官業組合連合会関係者、④建築現場を統轄する建築士の4名へのインタビューをおこなった（表-1）。

## 4. 愛媛県・高知県の左官

## 1) 愛媛県・高知県の左官の現状

愛媛県の左官の現状は、平成になってから小舞下地に荒壁を塗る現場が少なくなったが、現在でも年に1度から2度程度は残っている。

高知県の左官は、有名な「土佐漆喰」と合わせ、漆喰を扱う技術も優れている。台風の影響を受けやすく、「雨が下から降る」と言われるほど豪雨が降るため、現在も重厚な土蔵造りの住宅が建てられている。

## 2) 愛媛県・高知県の左官を取り巻く環境

愛媛県・高知県をはじめ、四国には各県に一つ「伝統的建造物群保存地区」（伝建地区）が存在する。愛媛県では「内子町八日市護国」、高知県では「室戸市吉良川」が伝建地区に指定されている。

愛媛県には、西予市宇和町のように伝建地区には指定されていないが、古い町並みが残されている。町並みの他にも、「えひめ鏝絵の会」という組織があり、鏝絵

表-1. インタビューイー（語り手）の内訳

愛媛県・高知県			
氏名（50音順）	区分	所在	インタビュー日時
城ノ戸技研 城ノ戸忠・城ノ戸健志	左官職人・会社経営	愛媛県大洲市	2005年8月5日、午前9時～午後1時
久保田誠志夫	左官職人	高知県安芸郡安田町	2005年8月2日、午後1時～午後3時
高田利三雄	左官職人・会社経営	愛媛県八幡浜市	2005年8月4日、午後5時～午後7時
羽藤広志	左官職人・会社経営	愛媛県今治市	2005年8月31日、午後1時～午後2時30分
安岡志郎	左官職人	愛媛県西予市	2005年8月3日、午後6時～午後9時
山形県「酒田・飽海地区」			
氏名（50音順）	区分	所在	インタビュー日時
阿部三夫	左官職人	山形県酒田市	2005年8月10日、午前9時～午前11時30分 2005年9月1日、午後12時～午後1時
後藤千秋	左官職人・会社経営	山形県酒田市	2005年11月23日、午後9時～午後10時30分
佐藤完二	建築士・工務店経営	山形県酒田市	2005年8月29日、午後1時30分～午後4時30分
相馬正弘	左官職人・日左連支部長	山形県酒田市	2005年11月23日、午前10時～正午12時

のある建造物が取り壊しになる場合は鏝絵を取り外し保護する活動をおこなっているなど、市井の人々による左官文化の保護が積極的におこなわれている。

## 5. 山形県「酒田・飽海地区」の左官

### 1) 左官の現状と変化

地方の左官職人にみられる傾向として、壁塗りだけではなく、住宅基礎、タイルやブロック、外壁、外構工事に至るまで、セメントを使用する仕事は一手に引き受けている。これは、地方では仕事が少ないため、一つの現場で多くの収入を得るための手段である。

「酒田・飽海地区」の左官業者がおこなう仕事はかつて、壁塗、基礎工事、タイル、外壁、外構、職人によっては瓦葺きと多岐にわたっていたが、現在では、基礎工事とタイルだけとなった。

### 2) 戻らぬ左官職人

1960年代、東京オリンピックや高度経済成長を機に、「酒田・飽海地区」の職人にも変化が現れた。人口が少ないため、建築現場が少ないという問題があった。それに加え左官の材料は寒さに影響を受けやすく、冬場の仕事は限られる。ところが、東京をはじめとする関東では開発事業が活発におこなわれ、1年を通して仕事に困ることはなかった。当時の学生は、企業が多くの人手を必要とし、「金の卵」と呼ばれ、職人を志す若者は同郷の先輩を頼って関東へ就職した。

もともと「一人親方」として仕事をしていた職人が多かったため、「酒田・飽海地区」から関東に多くの職人が出稼ぎに出た。そして、「酒田・飽海地区」に戻らぬ職人も少なくなかった。

### 3) 職人教育と企業

「酒田・飽海地区」には、「職業訓練法人庄内職業訓練協会」があり、若い左官職人の「左官技能士」の資格取得のための教育をおこなっている。

資格試験は全国共通の試験で、試験の「塗り」に用いられる下地は、すでに一般住宅では当たり前となった石膏ラスボードとなり、小舞かき、荒壁作りという試験は無い。企業は、伝統工法を扱える現場が少ないため、伝統工法の継承よりも資格取得者の保有率を上げ、企業ブランドを高めようとしている。

### 4) 左官の将来

最近では、シックハウス症候群を発生させない壁材として、自然材料を使用する「塗り壁」の人気は出ている。しかし、すぐに無害品が出てくるのは必至であ

る。コストを考えると、「塗り壁」の人気は薄れる可能性がある。これからは吸湿性や保温・耐火性など、「塗り壁」の機能や魅力を説明し、左官職人の方から、壁を塗ることを勧めていかなければならない。

## 6. おわりに

### 1) オーラル・ヒストリーの使い方

オーラル・ヒストリーの使い方として、はじめに「酒田・飽海地区」の左官に関してアンケートなどで基本データを作り、その上でオーラル・ヒストリー手法を用いるなど、他の調査方法と組み合わせによって、「酒田・飽海地区」の左官の変遷について、より明確な結果が得られると考えられる。

### 2) 伝統工法の継承と衰退

「酒田・飽海地区」では伝統工法が廃れ、愛媛県・高知県では、なぜ現在でも残っているのかを考える。

愛媛県のある地域では、子供が家を建てる時、親が伝統工法を使う住宅を建てるように指示するという。

高知県では、先述したように、台風による豪雨から住宅を守るために、土佐漆喰を材料とした土蔵造りの住宅工法が選ばれている。

「酒田・飽海地区」では、昭和39年(1964)に「新潟地震」が起こった。このとき、小舞下地に荒土の塗られた現場と、石膏ラスボードを用いて建てられている二つの現場があった。地震の揺れにより、地盤の弱い場所に建てられた小舞下地と荒土の塗られた現場は倒壊し、石膏ラスボードを用いて建てられた現場は大きな被害を受けなかった。これを見た大工をはじめ一般の人達に、「小舞下地の家は地震に弱い」という印象を与えてしまった。地震を境に、小舞下地と荒土の壁工法は姿を消し、石膏ラスボードが普及していった。

### 3) 左官技術の復興のために

今後、「酒田・飽海地区」に小舞下地に荒壁を塗るという仕事が出てくることは難しい。これからは、請け負った仕事をするだけでなく、左官職人として「塗り壁」の魅力・機能・性能を建築士だけでなく、施主にも自ら訴えかけ、積極的に「塗り壁」の仕事を増やす取り組みをしなければならない。

また、愛媛県・高知県の左官職人と「酒田・飽海地区」の左官職人には、同じ技能士資格を有していても、技術レベルに差が表れている。この対策として、職業訓練学校の科目に伝統工法の授業を取り入れるなど、伝統技術を習得できる環境を整える必要がある。